

平成 25 年南伊豆町議会 6 月定例会の開会にあたり、次の 4 項目について行政報告を申し上げます。

1 防災対策について

(1) 平成 24 年度実績

東日本大震災の教訓や南海トラフ巨大地震シミュレーションを踏まえ、平成 24 年 5 月 1 日付けで、総務課内に防災室を設置し、防災係 2 名体制から室長以下 3 名体制を敷き、防災対策の強化に努めてまいりました。

平成 24 年度事業といたしましては、各家庭への海拔表示シールの配布、電柱への海拔表示看板設置など「防災見える化事業」に取り組むとともに、自主防災会が行う避難地・避難路整備に対する補助制度の創設、孤立予想集落への衛星携帯電話の配備や津波予想集落への防災行政無線同報子局の新設など情報伝達網の整備充実、備蓄食料配備など、実施可能な対策を積極的に推進したところであります。

(2) 平成 25 年度事業

東日本大震災の教訓や南海トラフ巨大地震シミュレーション、今年度公表される静岡県第 4 次地震被害想定を踏まえ、今後の

防災対策の強化に努めているところであります。

平成 25 年度事業といたしましては、湊地区津波避難タワーの建設、津波避難ビル機能整備に対する補助制度の創設など、南海トラフ巨大地震による津波浸水区域内における安全な避難場所の確保を推進するとともに、静岡県第 4 次被害想定公表に伴い南伊豆町地域防災計画の見直しを実施いたします。

湊地区津波避難タワー建設工事につきましては、平成 25 年 5 月 31 日に入札を執行し、建設工事仮契約を長田建設工業株式会社と締結したところであります。

本件は、今議会の議案として上程いたしましたので、ご審議のほどよろしくお願い致します。

このほか、自主防災会が行う避難地・避難路整備に対する補助制度、孤立予想集落への衛星携帯電話の配備、備蓄食料配備など、引き続き実施可能な対策を積極的に推進してまいります。

今後とも、「自助、共助、公助」を合言葉に、一人ひとりが主体的に行動することにより地域や町を挙げて、災害に強い安全・安心のまちづくりを推進してまいります。

2 経済対策について

(1) 平成 24 年度の利子補給等の実績

平成 24 年度において、町内中小企業者等の経営の安定及び合理化を促進し、中小企業者等の健全な発展に資するため、「中小企業事業資金融資制度」に係る小口資金利子補給、短期経営改善資金利子補給を実施いたしました。

上期利用実績は、小口資金 62 件、2 億 3,079 万円の借り入れに対して 131 万円余の利子補給、短期経営改善資金が 1 件、500 万円の借り入れに対して、8 千円余の利子補給となっており、下期利用実績は、小口資金 64 件、2 億 2,879 万円の借り入れに対して年度末に 116 万円余の利子補給、短期経営改善資金につきましても、1 件、500 万円の借り入れに対して 2 万円余の利子補給となっております。

また、東日本大震災に係る緊急経済対策として、静岡県が設置いたしました「中小企業災害対策貸付資金制度」に係る利子補給制度につきましても、町単独事業として実施したところであります。

「中小企業災害対策資金」に係る実績は 12 件、1 億 3,470 万円の借り入れに対して 193 万円余の利子補給、「経済変動対策資金」に係る実績は 12 件、1 億 6,540 万円の借り入れに

対して 182 万円余の利子補給となっております。

平成 24 年度の融資総額は、89 件、5 億 3,589 万円、利子補給総額 627 万円余にのぼり、利用しやすい制度の提供ができたものと考えております。

続いて、平成 24 年度には商工会が実施いたしましたプレミアム商品券の発行事業及びショッピングモールによる販路拡大事業を支援してまいりました。

プレミアム商品券発行事業につきましては、平成 24 年 11 月 5 日から平成 25 年 3 月 10 日まで町内参画事業所 144 店舗で利用できる 15%の割増付き商品券 5,000 万円分を発行し、町では、当事業におけるプレミアム商品券の発行経費の一部及び割増分を助成したところ、利用実績は、5,725 万円、99.57%の利用率となりました。

内訳は、地元商店での利用が 49.4%、大型店舗での利用が 50.6%で、地域購買力の促進が図られ、町内商業の活性化に寄与できたものと考えております。

また、ショッピングモールによる販路拡大事業につきましては、当初計画いたしました 50 店舗には届きませんでした。34 店舗がインターネットを利用したショッピングモールを立ち上げ、販路拡大に向け情報発信しているところであります。

販路の拡大は、継続的に必要な対策の一つであると考えておりますので、今後も、町内産業の活性化に向けて、本年3月にパートナーシップ協定を調印した金融機関等とも連携し、関係団体等を支援してまいりたいと考えております。

(2) 自然まつりの状況

本年2月5日から3月10日に開催されました「第15回みなみの桜と菜の花まつり」の来町者数は、昨年の26万7,000人を上回る28万人（前年比5%増）となりました。

桜の開花は例年より1週間ほど遅れましたが、2月後半から3月にかけて比較的穏やかな気候の中、長期間桜を楽しむことができました。

また、菜の花につきましても、天候の影響により咲き揃うまでに日数がかかりましたが、3月に入りましてからは、ほぼ満開となり黄色のジュータンが青空に映えて、見る者に活力を与えるものでありました。

さらに、今年は新イベントとして「夜桜・流れ星」を実施したところ、想像を超える反響となり、ご覧いただいた皆様から喜びの声を多くいただきました。

未だ町内観光施設等の関係者におきましては、入込みなど

大変厳しい状況が続いておりますが、桜まつりも第 15 回目を迎えた中、お客様の評判もよく、リピーターも増えてきておりますので、町をあげた一大イベントに育ちつつあると実感しております。

今後も、南伊豆町の素晴らしい自然を多くの方に知っていただくとともに、文化遺産等も活用しながら町内宿泊者の増加や他地域への周遊等による滞在時間の延長を目指し、もてなしの心を原点に、持続可能な発展を実現できるよう、今後も継続して関係団体等を支援してまいりたいと考えております。

(3) 観光客等の入込み状況

平成 24 年度の観光客等の入込み状況がまとまりましたので、報告いたします。

分野別に見ますと、宿泊施設につきましては、民宿宿泊客数が前年度対比 102.1%、旅館宿泊客数につきましては、前年度対比 107.8%と、一昨年におきた東日本大震災の影響も徐々に緩和されてきたのではないかと推察されます。

また、観光施設につきましては前年度対比 126.1%、温泉施設が前年度対比 112.9%と、宿泊施設とほぼ同様の傾向と

なっております。

観光施設等の入込状況				
(単位：人、%)				
区分		平成24年4月～3月	平成23年4月～3月	前年度比
宿泊施設	民宿宿泊客	58,058	56,885	102.06
	旅館・ホテル等宿泊客	162,981	151,148	107.83
	小計	221,039	208,033	106.25
観光施設	下賀茂熱帯植物園	28,066	27,014	103.89
	波勝崎苑	29,959	31,145	96.19
	石廊崎遊覧船	25,712	24,364	105.53
	一条竹の子村	1,704	1,076	158.36
	天神原植物園	2,540	3,897	65.18
	伊豆下田CC	22,720	23,217	97.86
	ジオパークビジターセンター	28,923	-	-
	小計	139,624	110,713	126.11
温泉施設	銀の湯会館	75,974	64,739	117.35
	みなと湯	28,707	27,978	102.61
	小計	104,681	92,717	112.90
合計		465,344	411,463	113.09
			(資料：観光交流客数調査)	

3 岩崎産業株式会社との和解経過について

本年1月17日に開催されました第1回南伊豆町議会臨時会において議決をいただきました岩崎産業株式会社との訴訟に関する和解条項案に従い、岩崎産業株式会社が、土地の測量及び分筆登記業務を実施し、土地売買仮契約書の締結に向けて細部の調整処理をしております。

処理が済み次第、岩崎産業株式会社と土地売買仮契約書を締結し、財産取得のための議決を経て、所有権移転登記を完了させることとなります。

和解成立後には、観光のメッカとして石廊崎を再生させるため、町民参加型町政の手法として、町民や有識者による検討組織を立ち上げ、幅広い御意見等をお伺いしながら利活用を検討してまいります。

4 自然エネルギーについて

平成 23 年度から環境省の委託を受けた独立行政法人産業技術総合研究所が下賀茂温泉地域で実施してきた「温泉共生型地熱貯留層管理システム実証研究」につきましては、本年 1 月中旬に終了し、3 月中旬に環境省への成果報告書として取りまとめられ、3 月 27 日の新エネルギー利活用検討委員会及び 5 月 11 日の加納区生活新興センターにおける報告会において、当該事業者から説明をいただきました。

説明によりますと、下賀茂温泉地域では、約 50 本の^{おんせんせい}温泉井が利用されており、1 本当たり毎分約 100 リットルの湧出量となっていること、平均泉温は加納地区で 96 度、下賀茂地区で 70 度であること、泉質は中性又は弱アルカリ性であること、

塩素濃度は加納地区から下流域に従って低下していること、下賀茂温泉の熱源は南野山深部に中心があり、そこで約 150 度の温泉帯水層が生成され、青野川及び南野川方向に流動し、地表水と混合しながら下流域に流動していることなどが報告され、今後の課題として熱水の原因を特定するために南野山深部の地熱構造の調査が必要なことが提案されました。

今後につきましては、南野山深部の地熱構造の調査に向けて、課題や問題点等を整理して、検討してまいります。

以上で、平成 25 年 6 月定例会の行政報告を終わります。